

日本学術会議
若手アカデミー(第 24 期・第 13 回)国際分科会
議事要旨

- 1 会議名 若手アカデミー国際分科会 (第 24 期・第 13 回)
- 2 日時 令和 2 年 6 月 11 日 (木) 10:00~12:00
- 3 会議形式 ビデオ会議
- 4 議題
 - 4-1 大学の国際化の文章化について
 - 4-2 GYA 総会準備について
 - 4-3 24 期中の活動について

(出席者)

新福, 中澤, 岸村, 安田, 寺田, 中西, 田中, 小野, 川崎, 西嶋, 松中

4-1 大学の国際化の文章化について

令和 2 年 1 月 23 日 (木), 別府国際コンベンションセンター (ビーコンプラザ) にて行われた日本学術会議若手アカデミー公開ワークショップ「大学の国際化による地方活性化促進: 地域拠点としての大学の在り方を考える」に関して, 学術の動向に記事を投稿する予定である. その記事の内容を議論し, 整理した.

国際化に伴う課題, 問題は都市でも起こりうるため, 地方という言葉にとらわれず, 大学が根ざす地域という意味で, タイトル案を, [大学の国際化について地域活性化と共に考える] とした. また, 大学 (研究所) の国際化というテーマは大きい. どの地域をターゲットとするか, 大学 (研究所) 内で何ができるか, 役所などの行政に何ができるか, など, それぞれの項目における課題や改善点が多階層, 多岐にわたる. また, 国際化に関して研究者, 大学の側からのメリットは語られることが多いが, 地域の側からのメリットは語られることは多くない. 今回は, 国際分科会で本ワークショップを行うことになった枠組み (研究者側からの問題提起) を説明しつつ, ターゲットを, 大学がもたらす地域の活性化 (メリット), として, 別府での成功例を記述する.

コロナ禍で表面化した緊急時における留学生に対するフォローなどの課題についても議論した。

4-2 GYA 総会準備について

糸島で行う案が紹介された。

開催費用が都市より少ないことや、地域との連携がメリットとなる。

年末ごろに開催の成否を決定。

参加者：東アジアは低調。欧米、ASEAN が主

形態：オンライン・現地あるいは両方

GYA のプレセミナーやイベントの一部として、アウトリーチを行う。

テーマ案：生物多様性。

inclusivity との関連性や、文化の多様性とつながりがあるため、テーマとして良い。

サイエンスとアートを組み合わせることで市民に興味を持ってもらい、科学と市民をつなげる。

GYA を日本で行うことの意義や地域性を考慮する。

4-3 24 期中の活動について

コロナで休止になっているイベントが多い。

オンラインを活用した国際協力の実務者との交流の可能性が述べられた。平常時もそうであるが、非常時には特にこのような人的なネットワークが重要である。

次期に向けた提案：

科学技術外交における課題整理のためのステークホルダーとの関係性構築

国内のサイエンスリーダーシップを強める（議論となる項目案：リーダーシップとは何か、

日本におけるリーダーとは、モデルとは、第一フォロワーの重要性）